

令和7年度 第1回 和泉市公共交通利用活性化プロジェクト委員会 議事要旨

【会議概要】

- ・ 日 時：令和7年6月23日(月)14:00～15:30
- ・ 場 所：和泉市コミュニティセンター1階大集会室
- ・ 欠席者：栞原委員、小川委員、小林委員

【次第】 あいさつ

2. 委員紹介

3. 議案

- 1) 和泉市地域公共交通計画事業の進捗状況について
- 2) 中山間地域における公共交通について
- 3) 阪和線西エリア運行計画（案）について
- 4) 和泉市地域間幹線系統確保維持計画の策定について

【議事概要】

1. あいさつ

森吉委員長：本日はお忙しい中、ご出席いただき、また本市の公共交通行政をはじめ、市政各般にわたりご協力いただき感謝申し上げます。2025年大阪・関西万博の開幕から2ヵ月が経過し、相当な盛り上がりを見せており、1日あたり10数万人が来場する一大イベントで、その交通手段への注目も高まっている。会場の立地上輸送手段が限られ、主力の大阪メトロ中央線はタイミングによってはパンク状態となり、各地からのシャトルバスも貢献しているものの、乗務員不足により輸送力には限界が生じている。社会全体で乗務員不足が慢性化する中、万博に大量のドライバーの動員を求められているバス事業者にあっては相当苦慮されており、また、万博開催による観光客増加に伴うタクシーの需要が増加しており、交通利用の追い風となっている。本市において、乗務員不足や2024年問題により、中山間地域のバス路線が一部区間廃止となり、今年4月から市の施策として公共交通維持に向け、交通事業者の皆さまにご協力いただき対応しているところである。本日は、中山間地域における公共交通をはじめ、地域間幹線の確保維持に関する議案となっており、委員皆様におかれては、地域公共交通の活性化とともに、地域の移動手段の確保策に向けて、多様な観点からご意見を頂き、ご審議いただきたい。

2. 委員紹介

(省略)

3. 議案

1) 和泉市地域公共交通計画事業の進捗状況について

(事務局より資料 1-1、1-2 の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

伊勢副委員長：利用者数が増加しており、非常に良い傾向だと思うが、収支率や自治体負担額が増えて、目標年度のときに下回ってしまうのではないか。場合によっては負担額が上がる気もする。事務局としてはどう考えているのか。

事務局：交通計画においてデマンドを位置付けているが、計画策定段階で阪和線西エリアにおけるデマンド実証運行の費用等含めた目標値を定めているので、基本的には目標値を達成できるよう、事業進捗に努めたいと考えている。

伊勢副委員長：目標の利用者は達成したけれども、恐らくそれ以上に利用客を増やすようなことをしていかないといけないということですね。わかりました。

伊勢副委員長：資料 1-1 の裏面において、基本方針 3 の②1 番上、総合時刻表・マップの配布のフォローアップを見ると、総合マップでは修正箇所が膨大なため個別で作成する方向で進んでいるが、本来の基本目的は総合時刻表の作成と配布であったが、どう考えているのか。

事務局：計画策定時には、路線の廃止等を考慮しておらず、総合マップを作成し、市民に広く周知する目標であったが、昨年度の路線廃線、オンデマンドの導入で事務局としては総合マップを作成するのではなく、各ルートやモビリティにあった周知方法で広めていきたいと考えている。

伊勢副委員長：計画目標に対して若干ズレがありますが、事業として問題はないのか。

事務局：そう考えている。

伊勢副委員長：他に意見がないので、議案 1 の進捗状況については計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

(一同異議なし)

伊勢副委員長：この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

2) 中山間地域における公共交通について

(事務局より資料 2 の説明)

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

田中委員：3 ページの路線維持バス利用状況の最大利用者数は、1 便に乗られた最大数か。

事務局：最大利用者数とは、1 か月運行した中でその便に最も乗っていた日の最大人数であり、父鬼ルートであれば、4 月、5 月の 2 か月間で一番乗っていたのが 27 人である。

田中委員：例えば父鬼ルートであれば、最大利用者数 27 人となっているのは、6：25 の便

が乗っていた人数か。

事 務 局：曜日、日にちまでは掲載していないが、その便の最大乗っていた人数である。

伊勢副委員長：4 ページの春木川・松尾寺ルートについて、春木川・松尾寺発が最大利用者数 9 人で、この車両のキャパの最大値になっているが、特に積み残しなど起きていないか。最大 9 人が乗れると理解していいか。

事 務 局：運行事業者から雨の日も含めて積み残しなく最大 9 人乗車していると報告を受けている。

伊勢副委員長：チョイソコいずみの乗合率はどのぐらいか。それぞれ月の利用者は把握しているが、一度の運行で何人乗車しているかデータであると思うが。

事 務 局：1 か月の平均的な乗合率は約 1.78 である。

伊勢副委員長：収支率はどのぐらいか。

事 務 局：収支率については約 7% です。

田中委員：先程の乗合率について分かる範囲で結構です。1.78 人というのは 2～3 人が一緒に乗ってこられたので乗り合っているとしているのか、一人ひとりが違う予約でこの乗合率になったのか、詳しくわかるか。

事 務 局：データが Web 上でのシステムで確認が出来ますが、1 か月単位で日にちを指定して乗合率を計算出来ますが、データの取り方については詳しいことまでは分かっていない。

伊勢副委員長：以前も議論したかもしれないが、収支率 7% は行政としてはどう考えているか。

事 務 局：この地域では、オレンジバスが過去に運行しており、基本的には収支目標を定めているものの目標が下がったからといって運行を辞めたりはしない。

伊勢副委員長：オレンジバスと比較してどうか。

事 務 局：利用者数については、オレンジバスと比べて昨年 1 年間だと同じぐらいか、少し低い利用者数となっている。

伊勢副委員長：収支率についてはどうか。

事 務 局：収支率については、今数字を持っていないので、お示しできない。

伊勢副委員長：一番気になる所が、5、6 ページにおいて、河内長野市との調整が進まないとなかなか明確な説明ができないとのことだったが、実際それぞれの自治体のスケジュール、どれぐらいを目安に何が進んでいくか把握していないか。

事 務 局：河内長野市と現在協議を進めており、現時点で確認しているところは 7 月上旬には河内長野市のバス路線の便数、ダイヤが概ね確定すると聞いている。確定してきた段階で、和泉市で路線維持バスとして運行する定時定路線の便の接続等の調整に入る。

伊勢副委員長：他にご意見がないので、議案 2 の資料の内容について計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

(一同異議なし)

伊勢副委員長：この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

3) 阪和線西エリア運行計画（案）について

（事務局より資料3の説明）

伊勢副委員長：事務局からの説明について質問や意見等はあるか。

坂上委員：住民に対してのワークショップは行ったのか。

事務局：令和5年度に開催している。

坂上委員：誰に対して行ったのか。どこの地域が中心になっているのか。

事務局：1ページの緑色で囲っている所が今回導入する所で、校区でいうと3校区（国府・信太・池上）の地域で、自治会から推薦された方や、民生委員、老人クラブの方が集まっていたり、令和5年中に3回に分けてワークショップを行った。昨年、第2回の活プロで計画の報告はしており、1年経過してしまっただけ、今回事業者ヒアリングを踏まえた最終（案）としてまとめている。

坂上委員：昨年から会議に出席して、計画があることは聞いていた。今の地域の町会長にはどう周知していくのか。

事務局：今後、周知にあたっては検討段階であるが、地域を対象にした説明会を自治会単位で行うのか、校区単位か、大きな会場を借りてまとめるのかを検討していく。

坂上委員：今後、地元説明会みたいなものと考えているということですか。

事務局：そのとおり。

坂上委員：クレジット、QR決済などと資料では記載しているが、ICOCAは対象になるのか。

事務局：デマンド型交通システムについては、現在、槇尾校区で運行しているチョイソコいずみを阪和線西エリアにおいて、システムを汎用し導入を検討しており、基本的に使用できるものは、現金とおでかけ支援チケットであるが、今後利用状況等を踏まえて決済処理を検討していきたいと考えている。

坂上委員：現金とあるが、両替はできるのか。

事務局：車内に両替機はなく、お釣りは用意している。

坂上委員：例えば1,000円だとどうなる？入れたらお釣りが返ってくるのか。

事務局：両替機ではなく乗務員が対応する。

田中委員：実施するにあたって、最低何人が利用し、利用人数がどれだけいけば継続するのかという指標を設けられることが多いが、自治会等においてこれぐらいの利用が無いとこの地域では継続できないということを話されたりしますが、そういったことを考えているのか。

事務局：KPI（評価指標）の設定は検討しており、評価指標の項目として利用者数、収支率、乗合率、満足度等を設定する予定である。

事務局：説明会で地元へ行くにあたり、先程の委員ご指摘のとおり、評価指標、目標利用者数を説明会の中でも申し伝えていく予定である。実際に「これぐらい乗ってもらわないと継続できない。」とお伝えしたうえで実証運行を実施していくことを考えている。

澤村委員：1 ページに、めぐ〜るのルートを青の点線で示しているが、伯太郵便局北や、信太山駐屯地は廃止されていなかったか。

事務局：令和6年度にコミュニティバスめぐ〜るのルートの再編成を行い、ここで使用している青の線が前のものになっている。訂正させていただく。

伊勢副委員長：実証実験まで、結構時間がありますが修正出来そうですか。

事務局：地図ですか。

伊勢副委員長：そうです。

事務局：修正する。

伊勢副委員長：ここのバス停がなくなって、不便な地域になっているような変化はないですか。

事務局：特にないと思われる。

伊勢副委員長：2 ページ目の実証期間について、令和7年度、来年の2〜3月の2か月間は無償で実証運行して、次年度から2年間は有償で実証運行するとのことだが、先ほど委員から質問があったように、出来ればバーチャートか何かで各年度でいつまでに何をするのかを表で示してもらえると整理できていて良いのではないか。具体的にになってきたら、作成してみてもどうかと思う。

実証期間が令和7〜9年であり、令和7年に実証と書いているが、ここでも有償運行へいくかどうか検証をするのか。

事務局：何か数値を定めてその数値に行かなければ有償運行しないとは考えていない。榎尾の方でも行ったが、まず乗ってもらわないと利用が増えないので、2か月無償運行し、4月以降で2年間は有償運行を行っていく。有償期間において利用者数等をみていきたいと考えている。

伊勢副委員長：無償の時はそのシステムを知ってもらって試験運行的な意味でいいのか。次に、2年間運用し、KPIで事業評価をして上で、本格運行するかどうかでいいか。

事務局：はい。

井本委員：先ほどバーチャートで何を検証するかの話があったが、2年間するということは、途中でバス停の位置を動かしたり、バス停の増減も利用者の要望等によってはあるかと思うが、その辺もこの2年で変えながら行っていくのか。

事務局：車内においてアンケート調査等をし、バス停の設置位置等の意見が出てくるかと思うので、その意見を踏まえながら2年間の実証運行を行いたいと考えている。

井本委員：住民にもそう言う検証をしますよと伝えておいたほうが、意見が言いやすいし、自分の意見が反映されることを知って乗ってもらえれば、もっといい意見が集まるのではないかと思うので、その辺もよろしくお願いします。

事務局：実証期間内の見直しについては、データをもとに見直しを図っていくことになるが、例えば予算を伴うものや、本委員会の中で審議を得て見直していく、要は見直しに期間を要するもの、内容によっては、出来るものと出来ないものがでてくると思いますので、出来る範囲内で対応していく。

伊勢副委員長：地域住民に対しての周知がメインになっているが、利用対象は制限なかったですね。山側の人や他の市町村の方が利用してもいい訳なので、他の方にも見えるような形で Web や何かで情報提供はするのか。

事務局：はい。

伊勢副委員長：特にその地域の人たちの利用を優先するとかではなく、フラットに行うのか。

事務局：基本は、阪和西側のエリアの方、地域にお住まいの方を主に対象としている。システム上はどなたでも登録可能で利用できるものですが、阪和線西側の方に地域の身近な情報場所として停留所を設けている。こういった状況下なので地域外の方が頻繁に利用することが恐らくあまりないではないかと想定している。

伊勢副委員長：それも OD 見ながら状況に応じて変えていくかもしれない。あと、今日は特に必要ないが、ここの地域では目標指標を決めて、これを達成できなければなりませんよというスタンスの話があった。一方で同じサービスを導入している山側ではもともと路線バスがあったところなので特に目標値を下回ってもすぐにどうこうなく継続していくと話があったかと思うが、今後もバス路線がずっと維持できればそれに越したことはないし、そのために会議を開いているわけだが廃線していく可能性もないことはない。そうなってくるともともとあった所にメイクアップする形で新たな交通サービスを導入していくことになっていくと、自治体の財政的にも厳しくなってくるような気がして、生活交通の確保のマニュアルみたいなものをしっかり作りながら、自治体としてどの地域でもしっかり説明責任出来るようなロジックを考えておいた方が良いのではないかと思います。

伊勢副委員長：他にご意見がないので、議案 3 の資料の内容について計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

（一同異議なし）

伊勢副委員長：この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

4）和泉市地域間幹線系統確保維持計画の策定について

（事務局より資料 4 の説明）

井本委員：申請書 3 枚目の表の 9 番の生産性の向上のところ、（１）①取り組みのところ、南海バス専用 IC カード「なっち」の購入等を促すとともに。のところがまだ残っている。「なっち」は昨年度末で終わっていますよね。購入を促すフレーズが昨年度のまま残っていますので修正をお願いしたい。

田中委員：（申請書の内容について説明）

伊勢副委員長：国の補助金に関しては、赤字の半分はみますとのことなので、民間事業者が赤字を抱えながら運行しているとのことなので、その点だけよろしく願いいたします。

伊勢副委員長：他にご意見がないので、議案４の資料の内容について計画に沿って事業を進めていくで、ご異議ないか。

（一同異議なし）

伊勢副委員長：この件について、ご異議がないということで承認いただいたので、事務局は計画に沿って進めていただきたい。

４．その他

中田委員：現在、和泉市内にある弊社の光明池営業所において、市内のバス路線の運行にあたり約 50 台のバスを所有して日々事業を行っている。これらのバス車両については、それぞれ使用年数や走行距離などを考慮して計画的に更新を行っている。それに合わせて乗降口に段差のないノンステップバス車両の導入を進めている。これらは、高齢者や障がい者の方々やベビーカー利用の方々などあらゆる利用者が乗り降りしやすい環境を整備しまして、さらなるバリアフリー化、バスの利用促進を図っている所である。今後も弊社としては、ノンステップバスの車両の導入を進めるが、令和 7 年度、国の補助対象事業であるバリアフリー化設備等整備事業の補助金の交付条件のとおり、ノンステップバスの導入計画を本委員会において生活交通改善事業計画として策定し、今年度以降引き続きノンステップバス車両の導入をしたいと考えている。次回の本委員会において事務局から具体的な生活交通改善事業計画（案）を示していただいて、この場でご審議ご確認をいただきたいと考えているので、よろしくお願いしたい。

井本委員：今回、確保維持計画の補助金にのせて要求されるのか。

中田委員：幹線系統補助とは別である。

田中委員：資料 1-2 公共交通における自己負担額一人当たりの費用をきっちり出してくれてすごいと思う。今後、デマンドを入れるなどの計画があるので、1 人当たりの負担額が上がってくると仰っていたかと思うが、この協議会、地域交通を考える場というところで、お願いと言うか一回ご検討いただきたいこととして、今まで事業者と事務局で頑張ってきたところですが、今後ますます住民の協力が必要で、市として地域交通にどれだけお金がかかっているか、そういった「見える化」が出来るのであれば、国の補助金額、市の支出額を、今後こういった協議会で出していただけるように検討していただきたい。無理してどうしても出してほしい訳ではないが、ある方が皆さんも考えやすいのではないかと思います。

伊勢副委員長：いくつかの自治体で関わっているが、年度初めの 1 回目の時に今年度の予算とし

て何にどれぐらい予算を割り当てているか、年度末にこんな形で使いましたと歳入歳出の内訳の表を田中委員は言っているかと思うが、そういうのがあると実は市民の方もこの会議体であるいは自治体がかかりお金をかけながらいろんな事業をやりながら公共交通の活性化を図っていると「見える化」しますのでしょうかと思う。出来ればとの事だったので、検討いただきたい。

事務局：本市で策定している地域公共交通計画の中では、コミュニティバスや路線維持バスにかかる市民一人あたりの運行負担金は計画の中で約何円というかたちで、収支率についても掲載している。委員からもございましたが、「見える化」というところで市の負担、市民一人当たりの費用というところは、市のHPなどを活用して「見える化」していきたいと考えている。前々からご指摘いただいたことがあるので、そのあたりを公表していくかたちで市民の方に見ていただけるような環境作りに努めていきたいと考えている。

伊勢副委員長：いろいろ貴重なご意見ありがとうございます。その他、事務局から報告等ございますか。

事務局：1件報告いたします。前回本委員会におきまして報告しました国の補助事業令和7年度交通空白解消等リ・デザイン全面展開プロジェクト交通空白解消緊急対策事業の活用について南海バス路線一部区間廃止に伴う路線維持バス事業が3月末に採択された。対象経費、約6,300万に対し約4,400万が補助金として交付される予定となっている。

5. 閉 会

事務局：本日は長時間にわたり熱心に議論いただき、感謝申し上げます。これにて本日の和泉市公共交通活性化プロジェクト委員会を閉会する。

以上

【会議の様子】

